

1 学期中学校始業式校長挨拶（2024 年 4 月 8 日）

子どもは様々な面から物を見る達人です。なぜそう思うか、昨年度中学 2 年生が作ったこの詩集から紹介してお話しします。国語の授業で「異化」という修辞法を学びます。見慣れた事柄を非日常として捉え直し新鮮さを取り戻す効果があります。では紹介します。

どこ

腹が立つ

腹が決まる

腹が煮えくり返る

心が弾む

心に響く

心が沈む

人は色んなところできもちを感じる

けれども本当にきもちをかんでいるのは

どこなのだろう

体全体のいろんなところで気持ちを感じるという捉え方が新鮮です。「本当に気持ちを感じているのはどこ？」という問いの答えは、自分にも分からない。わからないからこそ、自分にも人にも優しくなれる。意外性を楽しむ気持ちが素敵です。

春は出会いの季節です。子どもの視点だからこそ見えるコト・モノ・人を発見しましょう。

2024 年度は、子どもの権利条約を批准して 30 年の年です。「学校はこういうもの」ではなく「こうなったらいいな」という視点で、学ぶ楽しさを実感できる学校をつくりましょう。